

わが

「確かな未来へ 夢はぐくむまち 南陽」を目指して

はじめに

南陽市は、東に奥羽山脈を控え、南から西にかけて吾妻山系と飯豊山系に囲まれた山形県南部の置賜盆地に位置し、山形県を人の横顔に例えると、ちょうど「えくぼ」に当たります。また明治期、英国女



元大蔵大臣・第15代日本銀行総裁「結城豊太郎記念館」

性旅行家のイザベラ・バードは、著書『日本奥地紀行』で、この地の風景を「東洋のアルカディア（桃源郷）」と評しました。

現在も、北部は山間地で南に沃野が広がり、気候も比較的温和で、米・野菜・果樹などの栽培に適し、赤湯温泉をはじめ豊富な観光資源に恵まれています。また、交通アクセスも山形新幹線や国道13号と国道113号が縦横断する県南地方の要衝の地でもあります。

本年度から、平成32年度を目標年次とする第5次総合計画がスタートしました。日本一の人づくりで心豊かな明るいまちを目指す「教育のまちづくり」、地域の活力を生み出し、働きがいのあるまちを目指す「産業のまちづくり」、生き生きと多世代が交流する元気なまちを目指す「健康のまちづくり」

の3つのまちづくりを柱に、多様な施策を展開していきます。

未来は人づくりにあり

わが郷土の偉人、元大蔵大臣・第15代日本銀行総裁の結城豊太郎先生が「郷土の発展は人づくりにあり」と説いたように、私も人づくりこそが財産で、活力に満ちた未来への礎であると考えています。

第5次総合計画の前期5カ年基本計画においても、人材育成は最重要課題ととらえ、小中学校などの教育施設整備や徳育を根底とした生涯教育の推進・充実に力を入れていきます。

具体的には、中学校統合校舎などの改築・耐震化工事、青少年センターナショナルセミナー、学習アドバイザーやスポーツコーディネーター事業、全国青年まちづくり



4年目を迎える青年教育事業、青年グループ「HOPE」

みます。子育て世代の住宅取得への支援や子育て応援住宅団地の造成などの住環境施策をはじめ、子どもを産み育てる年代が、安心して子育てしやすい環境づくりとして、保育や学童保育などの支援サービスの充実を図っていきます。

南陽ブランドの確立に向けて

本市の農産物、温泉、ワインなどの地域資源は、外に誇れる優れた宝です。



子育て支援都市宣言のハード面のシンボル「ドリームランド」

これまでは、東北人はPR下手といわれるように、外に向けての宣伝力が今一つ足りなかったという強い思いから、本年度より新しく課を設置し、専門に取り組む体制を整えました。

本市経済の回復も視野に入れた、南陽ブランドとしての商品販売戦略を構築し、国内外への売り込みPR施策を展開しながら、本市の知名度拡大と南陽ブランドの創生を図っていきます。

また、首都圏をターゲットにした情報発信オフィスを千代田区内に開設致しましたので、企業誘致活動、企業商談、観光や物産のPRなど、ここを拠点に本市の地域資源を売り込んでいきたいと考えています。

結びに

今年の干支は「卯年」です。平成22年12月に、地元民放局主催の第11回山形ふるさとCM大賞において、県内35市町村の作品の中から、本市の「幸せを呼ぶ3羽のうさぎ」が初の大賞に輝きました。このCMは県内で365回、東北各県でも100回放映される予定です。本市HPからも視聴できますので、ぜひ

プロフィール

- ◆面積 160・70km²
- ◆人口 3万4186人
- ◆世帯数 1万1016世帯

〔将来都市像〕確かな未来へ 夢はぐくむまち 南陽
〔まちの特徴〕北に丘陵、南に沃野が広がり、上杉の奥座敷として栄えた開湯900有余年の赤湯温泉など、歴史と文化が息づく豊かな自然に包まれた美しいまち。「子育て支援都市」の宣言を行い、「教育日本一のまちづくり」を柱に掲げている。

〔特産品〕ブドウ、サクランボ、ラフランス、リンゴ、ワイン、そば、おかひじき、赤湯ラーメン、米沢牛、青芋織



南陽市長
塩田秀雄



と成長」を基本理念に据えながら、上杉鷹山公の「為せば成る」のチャレンジ精神を持って、各種施策に取り組む覚悟です。結果として、その先に、必ずや「確かな未来」が見えてくるものと確信しています。

〔観光〕赤湯温泉、白竜湖、南陽スカイパーク、結城豊太郎記念館、稲荷森古墳、烏帽子山八幡宮、熊野大社、ドリームランド、夕鶴の里、くぐり滝、岩部山三十三観音、サクランボ・ブドウ・リンゴ狩り
〔イベント〕赤湯温泉桜まつり、スカイフェスティバルin南陽、南陽のパラまつり、熊野大社例大祭、南陽ワインフェスティバル、赤湯温泉ふるさとまつり、日本一の歴史と技と文化を誇る南陽の菊まつり、南陽さわやかマラソン大会、雪灯かりまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

観光交流人口100万人で 安定した経済基盤を目指す

はじめに

「四里の道は長かった。その間に青縞あおしまの市の立つ羽生のまちがあった」で始まる明治の文豪・田山花袋の小説『田舎教師』。

この小説の舞台となった羽生市は、豊かな水と肥沃な大地に恵まれ古くから農業と藍染め、衣料のまちとして栄えてきました。そして今、この地場産業を礎に、伝統を守りつつも新しい感覚と技術を取り入れ、衣料からファッション産業、自動車産業へと変貌を遂げようとしています。

ものづくりの精神を継ぎ 農業と工業の融合

市北部を流れる利根川によってもたらされた肥沃な大地は、稲作を中心に小麦やナス、キュウリ、

イチゴなどの栽培に適し、本市の特産品となっています。特に、埼玉県で推奨する水稲「彩のかがやき」は、東北地方の有名ブランド米と比較しても食味値が変わらず、島根県出雲市で開催された「第9回全国米・食味分析鑑定コンクール」

など数々の食味コンテストで入賞し、安くておいしい米として販路を拡大中です。また、市内キヤツセ羽生で作る地ビール「こぶし花ビール」は、「インターナショナル・ビアコンペティション」において10年連続入賞するなど、本市の特産品の一つとなっています。

一方では、東北自動車道羽生インターチェンジを利用すれば都心まで60分弱という地の利を生かし、市内3カ所に工業団地が造成されています。インターチェンジを起点とした幹線道路の整備も進み、

盤の上に成り立ちます。私は、安定した経済基盤を観光面で築いていきたいと考えています。

市内には、総面積54haの羽生水郷公園があり、その中には全国でも珍しい淡水魚を中心に展示する「さいたま水族館」があります。国の天然記念物ミヤコタナゴや食虫植物ムジナモ、体長が1mを超えるソウゴヨコイなど、川や沼に生息する約80種類の魚やカメ、エビなど約20種類の小動物を展示しています。また、同公園に隣接して、四季折々の花が楽しめる、地ビールや新鮮な地場産野菜を購入できるキヤツセ羽生もあり、市の観光スポットの一翼を担っています。

これらの施設や特産物を活用することにより集客力を高め、地元業者の活性化と税収の確保を実現し、強い経済基盤を築いていきたいと考えています。

今年も11月26・27日に ゆるキャラ®さみつとを開催

新しい観光要素として、平成22年11月に「ゆるキャラ®さみつとin羽生」を開催しました。全国から85体もの着ぐるみが参加し、パフォーマンスを繰り広げるほか、各自治体の物



全国から85体ものゆるキャラが勢揃いした「ゆるキャラ®さみつとin羽生」

現在は、自動車部品の製造業からIC産業、医薬品製造業などをはじめ、先端技術産業や研究機関など60数社が操業し、安定した雇用創出の場となっています。

さらなる飛躍を目指して

このような中、平成22年6月に2期目となる羽生市長に就任いたしました。財政難から疲弊していた地方自治体の現状と少子高齢化による人口の減少、地域社会の活力低下など、山積するさまざまな課題を打破し、本市がさらなる飛躍をするために次のことに取り組みしております。

●日本一魅力ある羽生市を目指すこと
まちの魅力は生活の場としての活力であり、安心であり、誇りであり、誇りです。私は、市民の皆さま一人ひとりにそのような意識と誇りを

産の販売や展示などが行われ、約5万人の家族連れでにぎわいました。また本年は、B級グルメなども取り入れ、西の彦根、東の羽生といわれるような新しい羽生の地域資源とします。

安定した経済基盤の上に 魅力あるまちづくりを目指す

国が地域主権を進めるに当た

り、地方はその在り方について自ら考え、自ら行動しなければなりません。私は、本市が持つ自然や歴史、文化など貴重な地域資源と、市民との協働による新しい観光資源の発掘と活用によって、税収の増加と地域の活性化を図り、個性的で魅力あるまちづくりを目指します。

プロフィール

- ◆面積 58・55km²
- ◆人口 5万7065人
- ◆世帯数 2万1225世帯

- 〔将来都市像〕 活力に満ちた 人輝く文化都市 羽生
- 〔まちの特徴〕 関東地方のほぼ中央に位置し、地域の北を利根川が流れる。古くから農業と藍染めのまちとして栄え、自然と都市が調和したまち
- 〔特産品〕 藍染め製品、米、ナス、キュウリ、イチゴ、いがまんじゅう、地ビール



羽生市長
河田晃明



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

夢ある都市 各務原市新年度方針

未来への物語をつくる

90年代初頭、バブル経済が崩壊して以来、日本経済は停滞、国力は低下して、国民は将来への不安を感じています。閉塞感がまん延する中、個人でも、都市でも、国家でも、成長への推力はただ一つ、「目標と、それに向かうたくましさ」です。

政治・行政の第一の任務は、市民により良き未来を提示し、「さあ一緒にそこへ進もう」という決意と、ビジョンと、そこへ向かうたくましさ、そのトータル環境づくりにあります。

未来を見据え、たくましく歩んでいく各務原市の平成23年度事業は次の4つが柱です。

●本の街

日本はほとんど無資源国です。

⑤本で友人、コミュニティづくり。春と秋、年2回の「青空古本市」を中心としたブックフェスティバルの開催など【本で触れあう事業】これら、ハード2事業、ソフト44事業の展開を通して、「本の街かみがはら」をつくります。

●各務原市第二次新総合計画の着実な推進

2年度目を迎える「各務原市第二次新総合計画」に掲げられた諸事業を確実に実施します。

本市の長期計画はすべて数値目標を設けてあり、毎年度末に検証、達成率を公表しています。前の第一次計画は、10年で達成率137%、プラス26事業でした。また、この間、本市のまちづくり



三世代が触れ合う「森の交流館」(完成外観パース)

最大の資源は日本人の知力と勤勉さです。それで世界の先進国になりました。この伝統を未来へ継承しなければなりません。知力は読書から始まります。本は人類の英知の宝庫です。受動的な映像と違い、これらの知恵を自らの意欲で得て、考え、想像し、夢と志をばぐくみ、憩いと潤いを与えます。

知人のある高名なジャーナリストが、最近英国で汽車の旅をしました。その車中の風景は、「英国人は窓外の美しい田園風景を眺めているか、本を読んでいるかでした。日本の新幹線の中は、疲れたように眠りこけているか、マンガ、週刊誌、携帯、パソコン……。この状態が5年10年続くと、日英知力の差がついてくるのではないか」そう危機感を持って私に語りました。ユーラシア大陸の東と西に、狭

は、平成17年公園都市日本一「緑の都市賞」内閣総理大臣賞、平成20年日本都市計画学会賞、日本まちづくり大賞、平成21年住みよい都市づくり国際コンクール銀賞・世界第3位受賞など、国内外からも高い評価を受けています。

●安全・安心な都市

市民の暮らしの安全・安心を無しに、都市づくりを語ることはできません。災害や救急時の救援活動を着実に実行するための「高機能消防指令センター整備事業」に着手します。

また、「高齢者安全安心事業」や、自助・共助を實踐できる地域のリーダーを育成する「防災ひとづくり講座事業」などを立ち上げ、ソフト面からも安全・安心な都市を支えます。

●公共施設の延命化

従来の応急的な公共施設の維持補修ではなく、公共施設などの戦略的な延命化を行います。

本市の公共施設は、人口急増期に建設した施設が多く、今後同時に老朽化し、維持補修の時期を迎えます。そこでそれらを戦略的に延命化、つまり耐用年数を延ばす工事に着手します。

い海を挟んで、日本と英国があります。その英国の首都ロンドンから3時間ほど行ったところに、ヘイ・オン・ワイという人口数千人の地域があります。年2回の古書市には、全英国から古書が集まり、全英国から買いに来ます。30年前からまちおこしとして始めた古書市が、今では古書市、コンサート、グルメなど壮大な地域文化フェア地域として発展しています。21世紀、知識社会の最先端エリアといえましょう。

本市は読書人口が多い地域です。小学生1人平均年66冊以上、また市立中央図書館の蔵書冊数および貸し出し冊数も、人口同規模の他都市平均と比べ、かなり多く、それは年を追って増えています。

本市は2年前から、音楽人口が多いことに着目し、「音楽の街」を

たくましい財政力の維持向上

本市は健全財政都市です。行財政構造改革のスピードが速く、今日、財政力で1・01(全国平均0・55)、実質公債費比率2・6(全国平均11・2)など、健全財政です。

また、プライマリーバランス(基礎的財政収支)も9年連続黒字です。今後も、この「たくましい財政力」を維持、高めていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 87・77km²
- ◆ 人口 14万9684人
- ◆ 世帯数 5万5432世帯

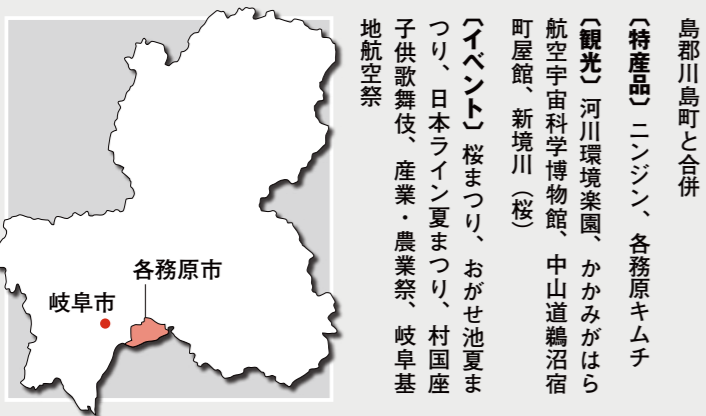
〔将来都市像〕夢ある都市「元氣な各務原市」の発展、公園都市・共生都市・快適産業都市へ

〔まちの特徴〕濃尾平野北部に位置し、モノづくりの都市として発展した、自然・文化・歴史が融合したまち

〔市町村合併〕平成16年11月1日、羽



各務原市長 森 真



島郡川島町と合併

〔特産品〕ニンジン、各務原キムチ

〔観光〕河川環境楽園、かみがはら航空宇宙科学博物館、中山道鶴沼宿町屋館、新境川(桜)

〔イベント〕桜まつり、おがせ池夏まつり、日本ライン夏まつり、村国座子供歌舞伎、産業・農業祭、岐阜基地航空祭



世界的な建築家・伊東豊雄氏が設計、ロビーコンサートも開催される「瞑想の森」市営斎場



市特産のニンジンと、姉妹都市・韓国春川市の松の実を使った「各務原キムチ」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「おもてなしの心 日本一」 ひとにやさしい温泉地」を目指して

はじめに

平成18年1月1日に嬉野町と塩田町が合併し、誕生した嬉野市は、観光産業の核となっている「日本三大美肌の湯」で九州屈指の名湯である嬉野温泉や、旧長崎街道の宿場町に残る建物や遺跡などが点在し、佐賀県の産業遺産として登録された「志田焼の里博物館」、伝統的建造物群保存地区に指定された「塩田津」および地区内の国指定重要文化財「西岡家住宅」などの歴史・文化の資産を数多く有しています。

また、全国茶品評会において平成21・22年に連続して農林水産大臣賞を受賞した「うれしの茶」と「清酒」や「温泉湯どうふ」など全国的なブランドになっている特産品もあります。

本市は、長崎自動車道嬉野IC、

国道34号線を主要交通網に福岡、佐賀、長崎を結ぶ西九州観光ルート基地であり、また、「九州新幹線西九州ルート嬉野温泉駅」の設置も予定されていることから、西九州ひいては西日本へ広がる広域的な交通アクセスの向上が期待され、将来へ向けた発展の可能性が大きくなりました。

「ひとにやさしいまちづくり」と「第5回ユニバーサルデザイン全国大会」

私は、初代市長に就任して以来、2期5年「バリアフリーなおもてなしのあるまち」「観光と公共施設のユニバーサルデザインを進めるまち」「住民同士が助け合うまち」を柱とし、障がい者や高齢者などの体の不自由な人たちが、快適な社会生活や旅の楽しみを満喫できるように「ひとにやさしいまちづくり」

を進めてまいりました。

そのような中、平成22年12月に「第5回ユニバーサルデザイン全国大会」が、本市で開催され、全国から多くの関係者にご参加いただきました。温泉地での開催は全国で初めてであり、UDの考え方を基本とし安心・安全な観光地づくりを目指している本市にとりまして、「癒やしと安らぎのまち」を全国にアピールする絶好の機会となりました。公共施設のバリアフリー化とともに、現在、13旅館20部屋が床の段差解消をはじめ、身障者用トイレ付きの部屋などのUD対応に模様替えをされ、全国でもトップレベルの施設整備が着々と進んでおります。

また、温泉街の入り口にある民間と協同で設立した「佐賀嬉野バリアフリーツアースセンター」では、「一

識醸成に努めていきたいと考えております。

また、老朽化のため閉鎖されていた公衆浴場を市民の強い要望により、平成22年4月に再建し「シーボルトの湯」として市営で運営しています。シーボルトが残した「江戸参府紀行」に病をよく癒やす温泉として紹介されていることにちなみ命名された木造の建物で、オレンジ色のトンガリ屋根が嬉野温泉街のシンボルとなり、市民の憩いの場であるとともに、新たな観光スポットにもなっています。全館バリアフリー対応であり、中でも、一人では入浴できない人のために、



塩田津伝統的建造物群保存地区

車いすで浴室内に入り、リフトのいすに移ってそのまま入浴できる貸切り湯も完備しており、体にハッピーのあ大変喜んでいただいております。

「ユニバーサルデザイン日本一の駅」を目指して

嬉野温泉は、年間約170万人の観光客が訪れ、県内最多の宿泊客数を誇る西九州有数の温泉観光地ですが、近年の景気低迷の影響などもあって、観光客数が伸び悩み厳しい環境にあります。しかし、本年3月に全線開通した九州新幹線鹿児島ルートや平成30年に開業予定の九州新幹線西九州ルートの新幹線を、新たな観光客を呼び込む強烈なツールとして飛躍のチャンスにしたいと考えています。平成22年には嬉野温泉駅にUDを取り入れるため「新幹線嬉野温泉駅(仮称)及び駅前広場ユニバーサルデザイン推進協議会」を発足し、西九州の新しい玄関口にふさわしい駅の完成に向けて、高齢者・親子連れ・障がい者・外国人の4つの視点から「ユニバーサルデザイン日本一の駅」を目指し推進しております。

「おもてなし」と「癒やしの力」で

かつては海軍病院(現国立病院機構嬉野医療センター)もあり、湯治場として栄えた嬉野には人を支え、癒やしてきた歴史があります。

温泉を活用した健康志向への関心が高まりつつある中、「おもてなし」と「癒やしの力」をキーワードに官民一体となって、温泉の持つ効能を生かした保養型・滞在型・体験型の健康保養地づくりを進めていきながら新たな魅力を満喫できる観光地づくりを図っていきたく考えております。

最後に

平成22年11月に「行政視察ガイドのパネルレット」を全国の自治体と議会事務局に郵送させていただきました。おかげさまで多くの市町村から本市にお出でいただきありがとうございます。これからも全国からの視察をお待ちいたしております。

プロフィール

- ◆ 面積 126.51km²
- ◆ 人口 2万8894人
- ◆ 世帯数 9886世帯

〔将来都市像〕 歓声が聞こえる嬉野市「明るく、やさしく、たくましく」

〔まちの特徴〕 豊かな自然環境に恵まれ、「日本三大美肌の湯」として西日本を代表する歴史のある温泉地、平成30年に「九州新幹線西九州ルート開業嬉野温泉駅」開業予定

〔市町村合併〕 平成18年1月1日、嬉野町と塩田町が合併し嬉野市となる

〔特産品〕 嬉野茶(玉緑茶の生産日本



嬉野市長 谷口 太一郎



一)、温泉湯どうふ、地酒(虎之児、東長、東一)、イチゴ、キュウリ、ゴーヤ、インゲン、肥前吉田焼

〔観光〕 嬉野温泉、シーボルトの湯、志田焼の里博物館、伝統的建造物群保存地区、轟の滝、春日溪谷、大茶樹、大野原高原

〔イベント〕 吉田おやまん陶器まつり、うれしの茶ミット、嬉野温泉梅まつり、嬉野温泉夏まつり、塩田町夏まつり、嬉野温泉秋まつり、産業祭、湯どうふフェスタ、志田焼の里博物館秋まつり、塩田津に旧Car、うれしのあつたかまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



平成22年にオープンした公衆浴場「シーボルトの湯」